

| | |
|--------------|---|
| Title | 編集後記 |
| Author(s) | 林, 透 |
| Citation | CGEIAニューアルレポート 2012: 284-284 |
| Issue Date | 2013-09 |
| Type | Others |
| Text version | publisher |
| URL | http://hdl.handle.net/10119/11533 |
| Rights | |
| Description | . 活動日誌・編集後記 / the ending |

編集後記 Editorial Note

It has passed 3 years since the establishment of Center for Graduate Education Initiative. We are very glad to complete the settlement of the quality assurance framework of graduate education; admission policy, curriculum policy, laboratory education policy and diploma policy. We will make more efforts to achieve the mission and vision. We are beginning to release some outcomes outside such as the quality assurance framework of graduate education, the education and student learning integrated database, and e-portfolio at home and abroad. Moreover, Graduate Education Reform Seminar, Tokyo, Feb 2013 was very exciting and useful for us. Recently the social demand to foster good talents is increasing for Japanese Universities. We will take more challenge for graduate education networking with other researchers and institutions.

大学院教育イニシアティブセンターは、3年目の事業を無事に終了し、5年プロジェクトの折り返し地点を通過した。事業初年度に提案した大学院教育の質保証フレームワーク、すなわち、4つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、研究室教育ポリシー、ディプロマ・ポリシー）の策定が完了したことは大きな成果である。特に、日本では唯一といえる研究室教育ポリシーを全学ベースで策定できたことは特筆すべきであろう。センターが掲げるミッション「国際的通用性を備えた先導的な大学院教育モデルの提示」とビジョン「本学が取り組んできた大学院教育に関する先進的な取組実績を基礎に、国内外の大学院との緊密な連携を図りながら、国際的通用性を備えた大学院教育の質保証と修了基準の確立に取り組み、大学の範たる次世代スタンダードの提示」に見据えながら、最終ゴールに向かって更に前進していきたい。

センター事業が3年目を迎え、各成果について国内外で情報発信する機会が増えてきた。大学院教育の質保証フレームワークの意義や成果に関する英国学会での口頭発表のほか、教育・学習統合データベースによる分析の方向性について総合研究大学院大学の研究会での基調講演させていただくなどの機会にも恵まれた。このほか、研究室教育ポートフォリオの成果についても国内外で情報発信を行い、有意義な意見交換が行われた。さらに、2011年度のグローバルセミナーに続き、2013年2月には、東京にて大学院教育改革セミナー2013「大学院教育で育む知的たくましさ」を開催することができた。大学関係者だけでなく、現役大学院生、企業経験者を交えたパネルディスカッションでは、本学学長や文部科学省来賓からも意見をいただきながら、非常に有意義なディスカッションが展開された。このような機会提供の場は継続的に行う重要性を改めて強く感じた。

大学教育・大学院教育に期待する社会的要請がこれまでに以上に高まっている。我々大学人の取り組み姿勢が大きく問われているように感じてならない。その責務を果たすため、学内外、国内外における大学関係者や関係機関とのネットワーキングを通じた新たな知の創造を目指していきたい。各種方面において、ご指導、ご鞭撻いただきたいと考えている。

（ 大学院教育イニシアティブセンター客員准教授（前・副センター長） 林 透 ）
Toru Hayashi, Visiting Associate Professor, Center for Graduate Education Initiative